

Title	ネットバンチャー企業の競争優位性 - 先行優位性と収穫逡増の分析 -
Sub Title	
Author	大澤亮(Oosawa, Riyou) 矢作, 恒雄(Yahagi, Tsuneo)
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	2000
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 2000年度経営学 第1578号 可能
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002000-1578

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

論文要旨

所属ゼミ	矢作 研究会	学籍番号	89928194	氏名	大澤 亮
(論文題名)					
<h1>ネットベンチャー企業の競争優位性 －先行優位性と収穫逡増の分析</h1>					
(内容の要旨)					
<p>大手企業と比較して不利な環境の中でネットベンチャー企業が優位性を確立していくには、これまでのオールドエコノミー下の原則と異なる部分を追求し、最大限に活用しなければならぬ。本論文ではネットエコノミー下で一般には重要とされている原則を検証し、実際のネット企業の事例にも適用できる分析フレームワークを構築した。まずは先行優位性がネット企業において特に重要であるか否かについて、フレームワークを構築してそれを基に検証した。次に、ネットエコノミー下でビジネスモデルや、その収益源によって収穫逡増が働くことを検証した。ここでは適切なビジネスモデル分類方法を提案し、その中で考えられる収益モデルにおいてそれぞれ検証した。両方の仮説ともに、事例分析を基に理論検証を行った。検証結果としては先行優位性においては、先発することと顧客開拓のスピード化共に、ネットワークの外部性が働きリアル面での優位性（チャネル等）が競争優位に影響を与えない環境においては特に重要であると証明された。また収穫逡増については、「あるビジネスモデルにおいては必ず収穫逡増となる」とは言えず、収益源や顧客開拓方法を考慮しそれぞれのモデルに合った戦略を採った場合のみ収穫逡増となることが判明した。結論では、実際のビジネスはビジネスモデル等のカテゴリーを超えての競争が行われていることから、実際のビジネスに則した分析フレームワークを提案し、実際に事例を挙げて分析した。研究の限界としては、本論文の収穫逡増分析は、コスト面での分析が含まれなかったために利益には必ずしも直結させることができなかった点が挙げられる。</p>					